

令和6年度宮代町社会福祉協議会 事業報告

I 総括的事項

我が国の経済状況は、雇用・所得環境が改善する中、緩やかな回復が期待されておりますが、未だ、資源価格や消費価格の高騰などにより、私たちの日常生活は、不安定な状況が続いています。

このような状況のもと、高齢化の新たなステージへの入り口として、「2025年問題」と呼ばれる超高齢社会の進展により、単身・高齢者世帯の増加とともに、生活困窮や孤立・孤独、認知症高齢者の増加等、私たちが抱える生活課題が深刻化し、さらには、福祉ニーズの複合化、複雑化により、地域福祉の姿も大きく変わるものと推察されています。

また、昨年、1月1日の能登半島地震などの甚大な被害の災害が発生し、今後、予想し得ない災害時に対応する地域コミュニティにおけるつながりや支え合い活動が求められています。

こうした中、宮代町社会福祉協議会（以下「社協」という。）では、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念とする「第2期地域福祉活動計画—あらゆる人で支え、不安を小さくする計画—」（以下「活動計画」という。）を策定しました。

活動計画では、地域が「丸ごと」につながり、地域のあらゆる人が、「我がごと」として、自分たちでできることは何かを考え、行動に移していく仕組みづくりを進め、地域の生活課題や福祉課題等を少しでも改善、解決していくものです。

また、令和6年度におきましては、「地域福祉の推進」では、住民主体の活動である「みまもりの「わ」事業」の拡充により、必要な支援につなげる見守り体制の強化に努めるとともに、「福祉活動推進事業所応援事業」では、異分野の事業所間において、共同によるイベント等への参加、交流を図り、事業所間の連携を推進したところであります。

また、「福祉交流・活動拠点の推進」では、すてっぷ宮代が、地域福祉交流拠点施設としての機能を発揮するため、土日開所や「西原自然の森拠点事業」等により、人が集い、交流し、互いを理解する機会を提供するとともに、社協と協働により地域福祉活動に取り組むすてっぷ宮代活動チームなど多様な団体、組織や関係者の皆様との連携体制の構築に努め、地域のつながりや協働の力を高める事業に取り組みました。

「福祉のまちづくり啓発活動」では、日本工業大学及び町との協働事業である「認知症を支えるまちづくり事業」により、認知症への理解を広げ、認知症があっても地域で共に暮らす社会づくりを発信しました。

「高齢者福祉の推進」では、ひとり暮らし高齢者の安否確認や「ふれあい生活支援事業（笑顔のチケット）」、「高齢者等訪問理美容助成事業」等により、高齢者の暮らしと生活を支える事業に取り組むとともに、「障がい者福祉」では、みんなのふくしカルタを活用したユニバーサルふくしカルタボッチャ大会を開催し、障がいへの理解や福祉について考える機会を提供しました。

「児童福祉」においては、子ども食堂「ゆうやけひろば」の運営をはじめ、地域の様々

な活動団体等が主体となって取り組む「子どもたちの居場所づくり」を発信・支援し、子どもたちの孤立防止に努めました。また、「就学時ランドセル応援事業」及び「歳末生活応援事業」により、ひとり親家庭への経済的支援を実施しました。

「ボランティア活動の推進」においては、「ボランティア体験プログラム事業」を再開し、夏休みにおける子どもたちのボランティア体験の機会を提供するとともに、地域応援学生ボランティア制度により、学生力を地区・自治会活動等の支援に活かす取り組みを進めました。

また、起こりうる災害に備え、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施し、人材育成や運営体制の構築に努めました。

「相談支援・権利擁護」では、生活の厳しい方に対し、フードドライブを活用した食料等支援や生活資金の貸付事業等を実施し、住民の皆様の自立した暮らしを支えました。

「介護・障がい福祉サービス」においては、利用者及びご家族との信頼関係を構築し、一人ひとりの特性やニーズに寄り添ったきめ細かいサービスの提供、支援に努めるとともに、経営の安定化、健全化に向けた検討を進めました。

その他、令和6年度におきましては、令和7年4月からスタートする南高齢者相談センターの開設準備を進め、事務所内移動をはじめ職員体制、運営体制、管理体制等を構築したしたものであります。

今後も、社会的不安に寄り添い、地域の皆様の生活を支える地域福祉事業を展開し、複雑化、多様化する福祉的課題に向けた包括的な支援サービスを提供するとともに、福祉交流館すてっぷ宮代が地域福祉拠点施設としての機能を十分に発揮していけるよう取り組んでまいります。

-目 次-

1	法人運営	P 1
2	地域福祉の推進	
	（1）地域福祉活動の推進	P 5
	（2）福祉交流・活動拠点の推進	P 7
	（3）福祉のまちづくり啓発活動の推進	P 8
3	高齢者・障がい者・児童福祉の推進	
	（1）高齢者福祉の推進	P 1 1
	（2）障がい者福祉の推進	P 1 3
	（3）児童福祉の推進	P 1 4
4	ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）	P 1 6
5	相談支援・権利擁護	
	（1）日常生活自立支援	P 1 8
	（2）生活困窮者支援	P 1 8
	（3）福祉資金貸付	P 1 9
6	在宅福祉サービス	P 2 1
7	介護・障がい福祉サービス	
	（1）居宅介護事業	P 2 2
	（2）訪問介護事業	P 2 2
	（3）障がい福祉サービス事業	P 2 3
	（4）相談支援事業	P 2 5
8	その他	
	（1）共同募金会宮代支会	P 2 6
	（2）日本赤十字宮代町分区	P 2 6

1 法人運営

(1) 理事会・評議員会・監査会 計 196,984 円 (R5年度 77,100 円)

定款第13条及び第21条、第22条に基づき、理事会・評議員会・監査会を開催しました。

■理事会の開催

開催年月日	議 事 内 容	出 席 者	結 果
第1回 令和6・5・27	議案第1号 令和5年度事業報告について 議案第2号 令和5年度収支決算について 議案第3号 第1回評議員会の招集について	理事総数 11名中9名出席 監事総数 2名中1名出席	原案可決 原案可決 原案可決
第2回 令和6・9・12	議案第1号 定款一部改正について 議案第2号 職員給与規定一部改正について 議案第3号 資金収支補正予算について 議案第4号 会員規程について	理事総数 11名10名出席	原案可決 原案可決 原案可決 原案可決
第3回 書面決議 令和7・2・3	議案第1号 理事候補者の選任について	理事総数 12名 監事総数 2名	選任可決
第4回 令和7・3・27	議案第1号 令和7年度事業計画について 議案第2号 令和7年度資金収支予算について 議案第3号 常務理事選定について 議案第4号 第三者委員について 議案第5号 役員等賠償責任保険の契約について	理事総数 12名12名出席 監事総数 2名中2名出席	原案可決 原案可決 選定可決 選任可決 原案可決

■評議員会の開催

開催年月日	議 事 内 容	出 席 者	結 果
第1回 令和6・6・19	議案第1号 令和5年度事業報告について 議案第2号 令和5年度収支決算について	評議員総数 26名中16名出席 監事総数 2名中1名出席	原案可決 原案可決
第2回 令和6・9・12	議案第1号 定款の一部改正について 議案第2号 資金収支補正予算について 議案第3号 会員規程について	評議員総数 26名中18名出席 監事総数 2名中0名出席	原案可決 原案可決 原案可決
第3回 書面決議 令和7・2・20	議案第1号 役員（理事）の選任について	評議員総数 26名	選任可決
第4回 令和7・3・27	議案第1号 令和7年度事業計画について 議案第2号 令和7年度資金収支予算について	評議員総数 26名中17名出席 監事総数 2名中0名出席	原案可決 原案可決

■監査会の開催

実施年月日	監 査 内 容	出 席 者	結 果
令和6・5・13	令和5年度事業監査及び会計監査の執行	監事総数 2名中2名出席	承認

(2) 社協会員募集

会員規程第7条に基づき、4月から7月を募集期間として、区長・自治会にご依頼し、会員募集を実施しました。

会員募集にあたり、社協会費の使途を掲載した会員募集チラシを作成するとともに、会員証の見直し（カード式へ）を図り、社協事業の周知に努めました。

また、特別会員（法人会員）向けに、社協の備品貸出支援を実施するとともに、会員規程の見直しを行いました。

■会員数等

会員の種類	R6年度		R5年度		増 減	
	会員数	会費額	会員数	会費額	会員数	会費額
一般会員（500円）	6,241口	3,120,500円	6,175口	3,087,500円	66口	33,000円
賛助会員（1,000円）	31口	31,000円	27口	27,000円	4口	4,000円
特別会員（5,000円）	83口	415,000円	100口	500,000円	-17口	-85,000円
特別会員（法人会員）	32口	160,000円	31口	155,000円	1口	5,000円
合 計	6,387口	3,726,500円	6,333口	3,769,500円	54口	-43,000円

*会員加入世帯率 68.77% （（参考）自治会加入世帯 9,241世帯 自治会加入率 59.28%）

(3) 組織体制の強化及び職員の資質向上

新たな地域福祉課題の解決に向けた事業等を着実に進めていくため、「一般寄付」及び「指定寄付」により、事業に必要な資金の確保に努めました。

また、職員の専門性や課題解決能力等の向上に向けて、埼玉県や県社会福祉協議会が主催する研修等に参加するとともに、組織風土の改善や法令順守を推進するため、内部研修を実施し、職員の資質向上に努めました。

■指定寄付の状況

指定寄付	内 容	寄付額
高齢者の暮らしを支える事業	ひとり暮らし高齢者の生活を支える「ふれあい生活支援事業（笑顔のチケット）」に活用	10,000円
障がいのある人の働くを応援する事業	障がいのある方の就労を支える福祉の店「ぶどうの樹」の運営に活用	380,000円
子ども笑顔架け橋事業	子どもの居場所づくりを目的とした子ども食堂「夕やけひろば」の運営に活用	235,678円
町内の福祉活動事業所支援事業	町内の福祉を支える事業所等支援として「福祉活動事業所等支援事業」に活用	12,000円
ほのぼの基金	在宅介護の充実を図る事業に活用	0円
ひまわりの家基金	福祉作業所「ひまわりの家」の運営に活用	0円
	合 計	637,678円
	(参) 一般寄付	1,820,669円

(4) 各種委員会の開催

計 3,043 円 (R5 年度 1,912 円)

社協内に、感染防止委員会、虐待防止委員会、事業継続計画 (BCP) 策定委員会を設置し、各部署が情報を共有しながら連携して組織の課題解決に向けた検討を進めました。

■各種委員会

各委員会等	内容
感染防止委員会	感染防止に関する研修会 (座学・実技) の検討実施
虐待防止委員会	虐待防止に関する研修会の検討実施
業務継続計画 (BCP) 委員会	業務継続計画 (BCP) に関する研修会の検討実施

(5) 広報・ホームページ

計 523,776 円 (R5 年度 501,050 円)

社協活動の周知徹底と福祉サービスの情報提供を図るため、広報紙「社協宮代」、「ひまわりだより」を発行しました。掲載にあたっては、各号でテーマを定め、テーマに合った特集ページを設け、地域福祉の現状や課題について、発信しました。

広報紙では伝えきれない情報は、Facebook や公式LINE 等で積極的に投稿し、社協事業等の情報を周知しました。

また、社協の登録団体 (すてっぷ宮代活動チーム) の活動を中心とした、どなたでも参加できる事業をまとめた「すてっぷ宮代カレンダー」の発行、チラシ・ポスターの配架などにより、団体等の活動を PR しました。

* 社協公式LINE 登録者数 186 人 ※2025年3月28日時点

■社協宮代

発行物	回数等
社協宮代	年3回 (第102号・第103号・第104号)
「ひまわりだより」(宮代ひまわりの家)	年1回 (第39号)

※ 特集：第102号：宮代みんなのふくしカルタ

第103号：認知症の特集

第104号：高齢者相談センター

(6) 福祉交流館の機能強化

地域福祉交流館すてっぷ宮代が、地域福祉を支える人や活動をつなげる場所として、地域福祉の基盤となる諸団体等の活動拠点としての役割を果たしていくため、休日開所 (第1土曜日、第3日曜日) を継続実施しました。

また、すてっぷ宮代内の交流スペースを活用し、新たにアートスペースコーナーを設置するとともに、スマホ・PC なんでも相談会やチャリティーバザー、ミニコンサートの開催や季節にちなんだ行事等を実施し、多くの人が集い、交流しました。

■休日開所の利用状況

利用団体数	利用人数	利用時間
延べ51団体	延べ710名	延べ199時間

■交流スペースの活用

月	内 容
4～5月	紙コップ鯉のぼり制作&カブト撮影スポット
6～7月	七夕 短冊制作&本物の竹に飾る
8～9月	おぼけ・モンスター制作
10月	カボチャづくり
11～12月	クリスマスオーナメント制作&サンタ帽・トナカイ帽制作
1月	絵馬制作
2～3月	お雛さま/お内裏様 制作

*この他 月1回程度 ミニコンサート開催

*アートスペースの利用実績

*敬称略

展示期間	作者	展示内容
5/23～6/20	峰村峻介	足跡ペイント
7/8～9/30	杉山好枝	ダイヤモンドアート
10/16～11/8	障がい福祉じゅれー	ハロウィン制作(折紙・塗り絵他)
12/17～3/6	住谷祐一郎	宮代町の風景写真



2 地域福祉の推進

(1) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動の推進を目的とした第2期宮代町地域福祉活動計画を策定するとともに、住民参加による地域福祉活動及び多様な組織や関係者との地域福祉活動のネットワークを構築するため、住民主体の見守り活動を広げていく「みまもりの「わ」事業」の拡充に努めました。また、地区・自治会及び地域交流サロン、福祉活動推進事業所等の活動を支援しました。

① 第2期地域福祉活動計画の策定

計 119,768 円 (R5年度一)

町で策定した「ともに支え合い 助け合う みんなにやさしいまちづくり」を基本理念とする「第2期宮代町地域福祉計画」を踏まえた「第2期宮代町地域福祉活動計画」を策定しました。

第2期宮代町地域福祉活動計画の基本理念は「支え合い、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」とし、基本方針を「暮らしの中の不安を小さくします」としたうえで、5つの目標を掲げ、目標ごとの取組み（事業）を位置づけています。

特に、計画期間（令和7年度～令和11年度）である5年間に取組む重要事業、拡充事業等を明確に位置付けるとともに、社協とつながる見守りポーターの登録状況やすてっぷ宮代活動チームの登録団体も紹介しています。

■部 数 500冊

■配布先 社協理事、評議員、監事、すてっぷ活動チーム、みまもりさん、みまもり団員、みまもり協力店、地域交流サロン、日本工業大学、民生委員・児童員、議会、行政 等

② みまもりの「わ」事業

計 158,895 円 (R5年度 125,510円)

地域で誰もが安心した生活が送れるよう、さりげない見守りを行う見守りサポーター（個人登録：みまもりさん、団体登録：みまもり団員、事業所登録：みまもり協力店）を拡充し、支援を必要としている方が地域で孤立しない見守り体制を推進しました。

また、見守りサポーターに対し、「みまもり通信」を発行し、地域で展開されている見守り活動の共有を図りました。

■見守りサポーター登録確保に向けた取組み

項目	実施状況
みまもり団員説明会	1団体

■見守りサポーター登録状況 <令和7年3月末現在>

種類	登録者数等
みまもりさん（個人登録）	150名
みまもり団員（団体登録）	791名（34団体）
みまもり協力店（事業者や店舗登録）	39店舗

■見守り通信

*年2回（8月・3月）

■見守りサポーターによる情報提供 4件

- ・学園台地域において、みまもりさんによる「人命救助」があり、埼玉新聞や宮代町役場の広報誌12月・1月号に掲載されました。
- ・みまもり協力店からの連絡により、認知症の症状が出ていた方が、介護保険サービスにつながりました。
- ・みまもりさんからの連絡により、以前と様子が変わってしまい認知症の症状が出ていた方が、早い段階で介護保険につながりました。 等

③ 地区・自治会支援事業

計 66,410 円 (R5年度 77,663 円)

地区・自治会に対し、プロジェクターやスピーカー・マイク等の機材、レクレーショングッズやテント等の備品の無料貸出しを行うとともに、一芸ボランティア、学生ボランティアの調整及び派遣を実施し、地区・自治会活動を支援しました。

また、社協に対する理解を広げるため、社協事業やすてっぷ宮代の紹介の他、貸出備品の展示・体験、喫茶コーナーを設けた「区長・自治会長さま感謝デー」を開催しました。

■地区・自治会への地域応援学生ボランティアの派遣状況

依頼内容	申込人数
4月20日(土)10時半～14時 辰新田こども広場	1
7月19日(金)16～18時・20日(土)9時～16時 宮代台サマーフェスタ 前日・当日	1
7月28日(日)17時～19時 姫宮地区 夏の縁日ボランティア	4
10月19日(土)10時半～13時半 辰新田こども広場	1
11月10日(日)9時～13時半 道佛1区炊き出し訓練	1
1月19日(日)9～14時 道仏1区もちつき会ボランティア	1

※地域応援学生ボランティアの総依頼件数や、登録者数はP.17へ

■区長・自治会さま感謝デー

日程	内容	参加者数等
6/1(土)9～16時	社協事業の紹介、地区等への貸出し備品やレクレーショングッズの展示及び体験、学生ボランティアや一芸ボランティア派遣相談、健康体操の体験等	15地区22名

④ 福祉活動推進事業所等支援事業

計 115,062 円 (R5年度 135,000 円)

宮代町内で福祉活動を推進している6事業所（すてっぷ宮代活動チームに登録している社会福祉事業所）に対し、消耗品及び物品等（A4コピー用紙、トイレットペーパー）を配布するとともに、地域福祉に関する情報交換会、分野を超えた交流活動等を実施し、事業所等の活動を支援しました。

交流会を通じた取組みについては、特別養護老人ホームみどりの森で開催された「みつ

なみ秋祭り（10月6日（日）」に、障がい福祉サービス事業所が自主製品の出店販売（貝工芸、あかりせんべい、さをり製品）として参加しました。

次年度以降も障がい、高齢、児童福祉の枠を超えた交流を重ね、相互理解を深めながら、共通課題の解決に向けて連携して対応していく試みを実施していきます。

■福祉活動推進事業所交流会

実施日	参加団体	実施内容
R6. 7. 26（金）	障がい福祉3団体、高齢福祉2団体	情報交換及び今後の活動の検討、提案
R6. 10. 6（日）	障がい福祉3団体、高齢福祉2団体	みつなみ秋祭りでの自主製品販売
R7. 3. 6（木）	障がい福祉2団体、高齢福祉2団体、保育園1団体	情報交換及び消耗物品の配布、今年度の振り返り次年度における提案と協議

（2）福祉交流・活動拠点の推進

地域共生社会の実現に向けて、福祉活動団体等と連携する仕組みづくり（プラットフォーム）を推進するため、西原自然の森拠点事業により、人が集い、交流する機会を提供するとともに、社協と協働で地域福祉活動を実施するすてっぷ宮代活動チーム登録団体をはじめ、多様な組織や関係者が相互に連携する機会を提供し、地域福祉活動のネットワーク化に向けて取り組みました。

① 西原自然の森拠点事業

計 229,557 円 (R5年度 60,689円)

福祉交流館すてっぷ宮代が地域福祉の拠点としての機能を高めていけるよう、すてっぷ宮代に多くの人が集い、その存在を周知することを目的に、すてっぷ宮代を会場とした様々なイベントを開催しました。

また、すてっぷ宮代活動チームの活動紹介・交流を目的とした「すてっぷまつり」では、「西原自然の森フェスタ」と同時開催し、多くの人が集い、関わり、多様な活動にふれる機会となりました。

■多目的室はくもくれん・しいがし・会議室の貸出し

	使用団体数	使用人数	使用時間
R 6	延べ 677 団体	延べ 6,883 名	延べ 1,993 時間
(参考) R 5	延べ 586 団体	延べ 5,568 名	延べ 1,664 時間

■西原自然の森フェスタ&すてっぷまつり

項目	内容
開催日時	11月16日(土)10～15時
協力団体等	すてっぷ宮代活動チーム25団体・200名
社協の実施内容等	すてっぷ宮代活動チームに所属するボランティア団体や活動団体、法人等が、それぞれの活動を紹介・体験できるブースを出展しました。
参加者	延べ約600名（西原自然の森フェスタ含む）

■ユニバーサル福祉カルタポッチャ大会(P.13)

■＼集まれ子どもたち／宮代町こどもの居場所で遊ぼう(P.15)

■スマホ・PCなんでも相談会(P.17)

②すてっぷ宮代活動チーム事業

計 51,763 円 (R5年度 421,177 円)

地域福祉活動を推進するため、社協と協働で地域福祉活動を実施する「すてっぷ宮代活動チーム」の登録団体を増やすとともに、各登録団体が交流できるよう「西原自然の森フェスタ&すてっぷまつり全体打合せ」等を実施しました。

■すてっぷ宮代活動チーム登録団体 101 団体 (令和 7 年 3 月末)

■西原自然の森フェスタ&すてっぷまつり全体打合せ

実施日	参加者数	内容
10 月 3 日(木)	20 団体 (32 名)	西原自然の森フェスタ&すてっぷまつりの趣旨・概要説明。各団体のブース内容紹介・交流。

(3) 福祉のまちづくり啓発活動

福祉のまちづくり啓発活動として、関係機関と連携し、福祉教育の充実及び認知症を支えるまちづくり事業に取り組み、地域福祉に関心と理解を深めました。

① 社会福祉協力校指定事業

計 450,000 円 (R5年度 450,000 円)

児童生徒に対し、福祉への理解と関心を高め、ボランティアや社会連携の精神を養うとともに、児童生徒をとおして家庭や地域社会へ福祉の啓発を図ることを目的に、福祉活動を実施する町内小・中学校・高校、特別支援学校の計 9 校を社会福祉協力校として指定し、1 校当り 5 万円を限度とする補助金を交付しました。

■福祉指定校 小中学校全校及び県立宮代高校、県立宮代特別支援学校

学 校 名	福 祉 協 力 校 実 施 事 業 内 容
百 間 小	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業-ボランティア・地域の方々へ御礼のタオル配布、特別支援学校と 4 年生の交流 ・ふれあい体験事業-昔の遊び、田植え、福祉等ゲストティーチャー謝礼 ・環境整備-花苗、土 ・募金・回収活動—牛乳パック等の回収、ユニセフ・赤い羽根・緑の羽根募金 等
笠 原 小	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊重、福祉意識の啓発活動 (一人一鉢栽培活動、学校ファームの充実)
東 小	<ul style="list-style-type: none"> ・「花いっぱい運動」の推進—花苗、肥料等 ・「ボランティア、福祉教育」の充実—地域の方々への手紙や歌のプレゼント
須 賀 小	<ul style="list-style-type: none"> ・「花いっぱい運動」の推進—花苗、肥料等 ・「福祉教育」の充実—感謝集会の開催
須 賀 中	<ul style="list-style-type: none"> ・校内緑化・環境整備—整備用機材 (草刈り機) 購入
百 間 中	<ul style="list-style-type: none"> ・百中緑化プロジェクト(花壇づくり、緑化運動) ・特別支援学級作業 (畑作業)
前 原 中	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体との交流 (体育祭、音楽祭、PTA バザー等の行事) ・宮代特別支援学校との交流会 ・緑化活動運動

宮代高校	・宮代特別支援学校分校との交流会
宮代特支学校	・学校ボランティアの募集に関する事業—新規ボランティアの受け入れ ・ボランティア講座—1回実施。 ・ボランティア活動の充実に関する事業—活動時消耗品、感染対策用品

②福祉教育への支援

各小中学校に対し、ボランティア団体等による体験学習の調整や、福祉体験機器の貸出しを行い、福祉教育を推進するための支援を行いました。

■ボランティア団体等とともに行った体験学習（機器貸出のみは除く）

体験学習名	手話体験	点字体験	ガイドヘルプ体験	車椅子体験	福祉の入口
(協力団体)	宮代手話の会	点字サークル 宮代	ガイドヘルプ 「ユーアイ宮代」	みやしろ団世会 ・荒木親子	(福)じりつ
東小学校	○	○	○	○	○
笠原小学校	○	○	○	○	○
百間小学校	—	—	○	○	—
百間中学校(1年生)	—	—	○	—	—
百間中学校(2年生)	—	—	—	○	—
百間中学校(3年生)	○	—	—	—	—
須賀中学校(2年生)	○	—	—	—	—

■福祉体験機器の貸出し

福祉用具	保有数	貸出数量	R5
高齢者擬似体験セット	10 個	23 個	29 個
車いす	36 台	19 台	22 台
白杖	10 本	40 本	48 本
アイマスク	100 枚	199 枚	210 枚
点字器	30 個	54 個	30 個

③ 認知症を支えるまちづくり事業

計 274,754 円 (R5 年度 359,001 円)

今後の共生社会や支え合いの地域社会を考えていく中で、高齢者だけでなく現役世代や学生等へのアプローチを同時に行っていく必要があります、日本工業大学と多面的な分野で連携ができるよう月に1回程度ミーティングを行いました。

今年度は、昨年同様『認知症にフレンドリーな社会を目指した合同展』のほか、ふれあい友の会、縁じょいメンバー登録者、町内 75 歳以上の方を対象に、宮代町健康介護課、日本工業大学と連携し、『宮代で共に暮らし共に創る講演会』を行いました。講演会では、宮代町においては、いざ困ったときには、生活を支える団体があることの周知と、認知症に関する展示や寸劇を併せて実施しました。

講演会の最後には、「認知症があっても暮らしやすい宮代町を共に創っていきましょう」という横断幕のメッセージを来場者の皆さんと共に発信して終了しました。

■心のふれあい絵手紙

項目	内容
参加者	町内小学校児童 278名
展示等	町立図書館で行われた合同展（『認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.5』）にて展示。参加記念品として、町のオリジナル缶バッジ進呈

■宮代で共に暮らし共に創る講演会

項目	内容
内容	講演「笑いは健康の良薬」 講師 三遊亭楽春氏 ※講演会の後、寸劇を交えた笑顔のチケットの使い方や、日本工業大学、図書館、宮代町健康介護と連携して取り組んでいる取り組みを紹介
主催	宮代町社会福祉協議会・宮代町健康介護課
協力	日本工業大学、宮代町立図書館
日時	9月28日（土）10:00～12:00
会場	コミュニティセンター進修館大ホール
参加者	245名

④ 宮代みんなのふくしカルタ事業

計 68,618 円 (R5 年度一)

昨年度、すてっぷ宮代活動チーム等の協力のもと作成した「宮代みんなのふくしカルタ」の普及を通して、福祉に関する理解を広めるため、カルタ・カルタボッチャの貸し出しや、ユニバーサル大会(P.13)での種目利用等を行いました。また、福祉課協力のもと、ふくしカルタ缶バッジを制作し、「こころをつなぐ展示会」や「\集まれこどもたち/宮代町こどもの居場所で遊ぼう」等のイベントで販売した後、すてっぷ宮代でも販売を開始しました。

*福祉カルタ・カルタボッチャの貸出し実績・・・27件

3 高齢者・障がい者・児童福祉の推進

(1) 高齢者福祉の推進

ひとり暮らし高齢者の安否確認活動や生活を支える事業をはじめ、縁じよい事業にかかる交流会や新たな情報発信（YouTube 動画）により、高齢者のやりがい、生きがいづくりをとおした社会参加の促進に取り組みました。

① ふれあい友の会事業 計 303,218 円 (R5 年度 361,244 円)

ふれあい友の会登録者（社協に登録された 65 歳以上のひとり暮らしの方）に対し、見守り活動の一環として、下記の時期に慰問品配布をとおした安否確認を実施しました。

■ふれあい友の会登録者数 315 名（令和 6 年度末）（令和 5 年度 319 名）

■慰問品配布 *当該事業費は赤い羽根共同募金の分配金が充てられています。

実施日	配布品	協力団体
R6 年 7 月中旬～8 月中旬	ご当地商品券 「ありがとう」	民生委員 児童委員協議会

② ふれあい生活支援事業（笑顔のチケット） 計 216,452 円 (R5 年度 174,629 円)

ひとり暮らし高齢者でふれあい友の会に登録されている方が、自立した生活の継続及び充実した生活を送っていただく取組の一環として、町内の生活支援提供団体による生活支援サービス（日常生活上のお手伝いや趣味のお手伝い）を利用できる「笑顔のチケット」を配布しました。「笑顔のチケット」を配布するにあたり、毎月（計 12 回）笑顔のチケット連絡会という形で会議を行い、実施に向けた協議を行うほか、各団体に共通する担い手不足等の課題を共有しました。担い手不足の課題については、宮代町健康介護課と連携して、担い手確保に向けた取り組みを実施しました。

■令和 6 年度笑顔のチケット利用結果（利用期間令和 6 年 5 月～令和 7 年 3 月）昨年度実績 92 件

事業者名	利用件数	内容（例）
認定 NPO 法人 きらりびとみやしろ	20 件	・移送サービス・壁紙張り替え・窓ふき・庭の手入れ ・障子貼り・犬の散歩・粗大ごみの回収
シルバー人材センター	60 件	・窓ふき・庭の草木の剪定・台所の換気扇掃除・草刈り ・不要品処分・プランターの片付け・障子の張り替え
株式会社御用聞き	9 件	・お風呂掃除・買い物・トイレのつまり対応・仏壇の移動 ・スマートフォンの操作・照明掃除
宮代町社会福祉協議会	18 件	・散歩・窓ふき・外窓拭き・買い物・室内の掃除
合計	107 件	

③地域交流サロン支援事業

計 20,000 円 (R5 年度一)

地域交流サロンの運営に係る個別の相談に応じるとともに、一芸ボランティアや出前講座の調整、レクレーショングッズや機材等の貸出し、広報作りにかかわる PC の操作方法等、サロン活動の支援を行いました。

また、5年ぶりにサロン連絡会を開催し、それぞれのサロンの現状や課題を共有するとともに、情報交換会や地域福祉活動計画アンケートを実施しました。

今後、アンケート結果をもとに地域交流サロンの支援について検討実施していきます。

■サロン連絡会

実施日	参加団体等	内容
令和6年9月9日(月)	15団体30名	交流サロン現状や課題の共有、情報交換会等

④生活支援体制整備事業(町からの受託事業)

計 4,300,000 円 (R5 年度 4,200,000 円)

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進するため、地域支え合い講座や介護入門研修など各種事業に取り組みました。

■地域訪問による情報収集・情報発信及び生活支援に繋がる事業の PR

地域で開催している地域交流サロンを訪問し、サロン参加者から地域の状況等の把握を行いました。また、サロンの取組みを Facebook で発信し PR するとともに、縁じょい通信(5月・10月・1月)を作成し、縁じょいメンバー登録者に送付しました。

*令和6年度縁じょい通信発行数 述べ1,323名(前年比△70名)

■地域支え合い講座の開催

令和6年8月17日(土)進修館小ホールにて、大学生を担い手に生活支援の活動や居場所づくりに取り組んでいる(株)御用聞き 代表取締役社長の古市さんをお招きし、新しい多様なつながり方についてのコツについて、お話しいただきました。

項目	内容
実施日等	令和6年8月17日(土)進修館小ホール
講師	株式会社御用聞き代表 古市盛久氏
実施内容	シン・ご近所付き合いに向けて
参加者	35名

■介護入門研修の開催

身近な人の「もしも」に備えていただくために、介護入門研修を実施しました。今回の講座では、介護に関する基礎知識・基本技術の他、「どうすれば介護保険のサービスを利用できるのか」といった基本事項を中心に、事前に動画を作成して教材として用いました。

項目	内容
実施日	令和7年2月19日(水)
講師	宮代町健康介護課 地域包括支援センターもみの木 宮代町社会福祉協議会ホームヘルパーステーション
実施内容	・介護保険の基礎知識 ・介護保険の要介護認定からサービス利用までの流れ(動画) ・基本的な介護スキル
参加者	27名

■協議体への参加 計6回参加

協議体は、生活支援の体制を整備するためにつくられた、生活支援提供主体を中心に構成された団体です。協議体の構成メンバーの力を如何に引き出して、担い手育成、支え合いの精神を啓発するかを町の担当者と協議を行って実行しました。

⑤ 高齢者等訪問理美容助成事業 計104,500円 (R5年度 60,000円)

介護保険法における要介護状態区分が要介護1以上に認定された方で、心身の状態から理容店へ出向くことが困難な方、又は身体障がい者手帳及び療育手帳並びに精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方で、自ら理容店等へ出向くことが困難な方に、1人1回につき3,000円(年3回)を限度として訪問による理美容サービスを受けた際の費用の一部を助成しました。

*高齢者等訪問理美容助成者 19名 計104,500円を助成しました。

(2) 障がい者福祉の推進

障がいへの理解を深め、障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、障がいのある方と地域を結ぶ交流事業を実施しました。

① 障がい者交流事業

コロナ禍が明け、「福祉の店喫茶ぶどうの樹」の営業再開が本格化し2年目を迎えました。「障がいのある方のはたらく場」「地域との交流の場」という目的に立ち返り、ぶどうの樹を拠点として地域と障がいのある方の交流機会の創出を図っています。

ぶどうの樹での喫茶業務を通じて、宮代ひまわりの家以外の町内障がい福祉サービス事業所からの職場実習(1名)や特別支援学校(宮代分校)からの職業体験授業(前後期併せて6名、全12回)を受け入れ、町民ボランティアや大学実習生と一緒に活動し、来店いただいた地域の方と交流する機会を設けました。

② チーム対抗ユニバーサル福祉カルタポッチャ大会 計35,775円 (R5年度 43,194円)

年齢や障がいの有無を超えてスポーツを楽しみながら交流することを目的としたユニバーサルポッチャ大会を開催しました。

当日は、障がい福祉サービス事業所の利用者やさわやかクラブ連合会、ボランティア団体、スポーツ少年団等が参加し、白熱した戦いや応援を繰り広げるとともに、参加賞のアイスを食べながら和やかに交流しました。

■チーム対抗ユニバーサル福祉カルタポッチャ大会

実施日	参加者数	内容
8月21日(水)	9団体(61名)	スポーツ推進員・ミズノの審判協力のもと、社協オリジナルルールポッチャ大会を開催

③ スポーツフェスティバル

これまで社協で実施してきた「ふくし運動会」にかわり、年齢、性別、障がいの有無に関係なく誰もが自由に参加できる、町主催の「町民スポーツフェスティバル2024」に参加しました。

■スポーツフェスティバル 2024

項目	内容
実施日等	令和6年10月13日(日) 宮代町総合運動公園
協力団体等	さわやかクラブ連合会、宮代町福祉課
社協実施内容	ふくしカルタボッチャ、輪投げ、バグー
参加者	社協イベント161人 スポーツフェスティバル全体では延べ3,437人

④ 音訳 CD 点字本配布事業

計 3,686 円 (R5年度 8,509 円)

音訳 CD については、ボランティアセンター登録団体である「みやしろ音訳ボランティア」の協力を得て、町広報・社協宮代・ひまわりだより・議会だより等を音訳したものを CD 化したうえで、視覚障がい者等へ配付し、情報支援を図りました。

点字本については、ボランティアセンター登録団体である「点字サークル宮代」の協力を得て、社協宮代の広報紙を点字に翻訳し、すてっぷ宮代やぶどうの樹等に配架していましたが、ボランティア人数の減少等により、作成が難しく、ボランティア団体への負担を考慮し、年度途中で停止しました。

(3) 児童福祉の推進

子どもたちの孤立を防ぎ、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるため、子ども食堂「ゆうやけひろば」の運営をはじめ、地域の様々な活動団体等が主体となって取り組む「新たなこどもたちの居場所づくり」を推進しました。

また、経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭等を支援するため、就学時ランドセル応援事業とともに、新たに歳末生活応援事業をスタートさせました。

① 子ども食堂（ゆうやけひろば）事業

計 377,585 円 (R5年度 358,151 円)

ゆうやけひろば実行委員会（ボランティア）とともに、様々な家庭の事情により、十分な食事を摂ることや、家族と食事することが難しい子ども・保護者等に対し、(株)新しい村生産者組合やアルファクラブ武蔵野(株)等の協力を得て、低価格での食事提供と居場所づくりを目的とした子ども食堂を、進修館の食堂にて開催しました。

昨年度より、テイクアウト形式から会食形式に戻り、参加者の減少なども一時ありましたが、参加者は以前以上に増え、子どもだけの参加も増えるなど、以前のこどもの居場所としての雰囲気徐徐に戻ってきました。『あそびば』もにぎわい、大学生等のボランティアと一緒に遊ぶなど楽しいひと時を過ごしてもらうことができました。

■子ども食堂（ゆうやけひろば）の運営状況

項目	内容
開催日等	毎月2回（第2土曜日と第4木曜日の月2回 17:00～19:30） 合計 24 回
参加者	延べ計 1,608 名（大人 565 名、子ども 1,043 名）

② お弁当配達事業（町からの受託事業）

計 2,645,097 円 (R5 年度 2,674,735 円)

町からの委託を受け、見守りが必要な子育て世帯に対し、週一回（毎週火曜日）のお弁当配達を通じて子どもの見守りを実施しました。

*対象世帯（※令和7年3月時点） 11世帯 49名 配達回数 51回

③ 新たな子どもの居場所づくり事業

計 51,946 円 (R5 年度 - 円)

すてっぷ宮代に、子どもや保護者が気軽に来られる機会をつくるため、子ども向けのイベントの開催や交流スペース・キッズスペースの充実を図った他、夕方 16～17 時を「こどものじかん」として、空いている会議室・多目的室を子どもが自由に使えるスペースとして開放しました。

また、宮代町囲碁クラブの協力により毎週開催されている『こども囲碁教室』を継続開催するとともに、新しい子どもの居場所を作りたい団体や、既に活動している団体の相談に応じ、助成金の申請・報告手続きの補助や食材の提供等の支援を行いました。

■ 囲碁教室 すてっぷ宮代活動チーム（宮代町囲碁クラブ）によるこどもの居場所

実施日	参加者数	内容
毎週金曜日 午後 4 時～5 時	毎回 15 名程度	すてっぷ宮代活動チーム登録団体囲碁クラブによるこども囲碁教室を開催

■ \集まれこどもたち/宮代町こどもの居場所で遊ぼう *共催 宮代町 子育て支援課

実施日	参加者数	協力団体
12 月 14 日（土）	約 300 名	町内でこどもの居場所づくりを行う 9 団体 ※辰新田・蓮谷町内会こども広場/道佛集会所元気クラブ/ゆうやけひろば(子ども食堂)/和文化クラブきっさこキッズ/かしんだま文庫/宮代町囲碁クラブこども囲碁教室/東小こどもアソビバ/みんなの家な学園/ちびっこ鉄道クラブ宮代

④ 就学時ランドセル応援事業

計 20,000 円 (R5 年度 200,000 円)

ひとり親世帯・両親ともおられない世帯のランドセル購入費用の一部（最大 2 万円）を助成しました。

*就学時ランドセル応援事業利用者 1 世帯

⑤ 歳末生活応援事業

計 85,620 円 (R5 年度 -)

経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭等に対し、少しでも温かい新年を過ごしていただくため、希望のあった世帯へ、ありがとう商品券・米 5 kg・キャラクター切り餅を配布しました。

* 歳末生活応援事業配布世帯 35 世帯

4 ボランティア活動の推進（ボランティアセンターの運営）

（1）ボランティア活動の推進

①ボランティアセンターの運営

計 27,418 円 (R5 年度 219,021 円)

地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深め、ボランティアの育成、援助を行い、地域福祉の増進を図ることを目的に、ボランティアセンターを運営しました。

社協宮代でのボランティア特集ページや、HP・Facebook、イベント等で周知を図った他、登録ボランティア団体・個人ボランティアと、「ボランティアを依頼したい人(団体・施設)」、「ボランティア団体への加入を希望する方」などを繋げ、調整しました。

*ボランティア調整 相談件数 70 件

■登録ボランティアの状況

種別	内容	団・個別	登録数
福祉 ボランティア	福祉を目的にしたボランティア または、慰問活動など福祉に関 わる活動が中心のボランティア	団体	16 団体 (239 名)
		個人	ぶどうの樹、ひまわりの 家、宮代特別支援学校等各 活動先で管理
一芸 ボランティア	施設やサロン等に訪問し、演奏 やマジックなどを披露するボラ ンティア	団体	25 団体 (365 名)
		個人	20 名

*福祉ボランティア兼一芸ボランティアの団体や、複数団体加入の方もいるため、団体数・人数については、重複あり

■ボランティア保険加入取扱状況（ボランティア保険受付業務）

基本プラン 保険料 350 円		天災プラン 保険料 500 円		合計	
572 人	200,200 円	98 人	49,000 円	670 人	249,200 円

②ボランティア養成講座

計 20,600 円 (R5 年度 32,540 円)

ボランティア養成講座を実施し、ボランティアにふれる機会とするとともに、新たなボランティアの確保に努めました。

■ボランティア養成講座

講座名		日程	申込 人数
福祉教育サポートボランティア 養成講座	主催	9 月 9 日(月)・10 日(火)	5 名
傾聴ボランティア養成講座	共催	6 月 19 日(水)、6 月 26 日 (水)、7 月 3 日(水)	38 名
学校ボランティア講座	協力	6 月 17 日(月)	2 名

③ ボランティア体験プログラム事業

計 59,462 円 (R5 年度一)

夏休み期間に、ボランティア経験のない方も気軽に参加できるボランティア体験メニューを提供する「ボランティア体験プログラム」を 5 年ぶりに再開しました。申込を紙媒体だけでなく、Google フォームからも可能にし、宮代高校にもチラシを配布した結果、最後に開催した平成 31 年度より参加者数がほぼ倍増しました。

■ボランティア体験プログラム

メニュー数	参加者 実人数	述べ参加者数
24	80 人	153 人

④ スマホ・パソコン何でも相談会

計 15,842 円 (R5 年度一)

日本工業大学と連携し、情報メディア工学科の学生が、すてっぷ宮代内で情報ボランティアとして相談に応じる「スマホ・パソコン何でも相談会」を実施しました。

■スマホ・パソコン何でも相談会

	ボランティア人数	相談件数
前期 5月～7月	82 名	491 件
後期 10月～12月	76 名	489 件

⑤ 地域応援学生ボランティア事業

町や地区・自治会からの依頼を受け、地域活動やイベント等の支援として、町内在住・在学の高校生・大学生を繋ぎました。

■地域応援学生ボランティア

依頼件数	学生ボランティア LINE 登録者	活動者数
18 件	61 名	延べ 34 名

⑥ 災害ボランティアセンター運営事業

計 21,327 円 (R5 年度 106,420 円)

災害時において、住民ニーズに添った支援をするためには、混乱時にも的確にボランティアを派遣するノウハウを蓄積することが必要なため、赤十字奉仕団や宮代町役場と連携し、災害ボランティアセンター立上げ訓練を実施しました。

今回は、前原中学校、百間中学校の生徒や大学生等若い世代も参加し、今回初めて、被災地を想定した活動を行い、また、災害に備えて、非常食のレシピの紹介等も行うなど、災害について考えてもらう機会を提供しました。

■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

実施日	参加者数	内容
R7 年 2 月 22 日 (土)	70 名	ボランティアの受入れ、ボランティア要望の受付、ボランティア活動の調整、送り出し訓練、被災地訓練、ハイゼックス炊飯袋を使った調理等も実施。

5 相談支援・権利擁護

(1) 日常生活自立支援

住民の皆様の生活上の悩みや相談に応じるとともに、個人の尊厳と意見が尊重され、適切な福祉サービスが選択できるよう、あんしんサポートねっと事業により、一人ひとりの生活に寄り添った必要な支援を行いました。

① 心配ごと相談

毎月第2木曜日の午後2時から3時30分までを相談日として、住民の生活上の悩みごとや心配ごとなどのあらゆる相談に応じ、適切な助言指導を行いました。

*相談日数12日 相談件数3件(電話相談含む)(R5年度2件)

② あんしんサポートねっと事業

計 1,357,290 円 (R5年度 164,180 円)

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方に対し、生活支援員による福祉サービスの利用援助を行い、地域において自立した生活が送れるよう支援しました。

■ あんしんサポートねっと利用者

対象者	前年度より 継続	R6 年度中 新規	R6 年度中 解約	R6 年度末現在 契約者数
認知症高齢者	8名	0名	3名	5名
知的障がい者	3名	2名	0名	5名
精神障がい者	1名	1名	0名	2名
合計	12名	3名	3名	12名

■ あんしんサポートねっと援助内容等

援助内容	生活支援員
金銭管理 通帳預り 書類預りサービス (銀行貸金庫で管理)	12名 (11)名 (1)名 3名

(2) 生活困窮者支援

経済的に厳しい生活困窮世帯を対象に、フードドライブを活用した食糧等支援や生活資金の貸付事業等を実施し、住民の皆様の自立した暮らしを支えました。

① 彩の国あんしんセーフティーねっと

社会福祉法人格を有する施設(みどりの森)及び社会貢献支援員(行田市の社会福祉法人隼人会まきば園)と社協が協働して実施する事業で、地域の生計困難者の身近な相談機関として、滞納している公共料金の支払や生活費等に対し10万円を限度に支援しました。

*相談件数8件 対応件数7件 (令和5年度 相談件数9件 対応件数4件)

②生活困窮者自立支援事業

生活困窮者に対して、生活保護に至る前の支援を行うことにより、対象者の自立の促進を図る事業で、社協は、町とともに相談窓口であるアスポーツ相談支援センター埼玉東部へつなぎました。

*相談件数 1 件 (令和 5 年度 相談件数 14 件)

また、福祉資金やあんしんセーフティーネット等の制度の対象にならない生活困窮者の方に、連合埼玉が運営しているネット 21 久喜というフードバンクから提供を受けた食料や地元の方から寄付された食料を届けました。

*給付件数 162 件 (令和 5 年度 給付 162 件)

③フードパントリー事業

計 37,450 円 (R5 年度 17,800 円)

生活困窮世帯等に対する支援として、食品食材等の無償提供を行いました。

また、ボランティア団体「ちあーずFD」の協力で隔月に定期的な食品配布を実施しました。

■フードパントリー

項目	内容
食品寄付 BOX の設置	町内 8 カ所 (宮代町福祉課 子育て支援課 町内郵便局 3 カ所 新しい村 無印良品 社会福祉協議会) ※新しい村は子ども食堂の前日のみ。
食品寄付の受付	総重量 約 1355.6 kg
フードパントリー(食品の配布)	隔月パントリー 延べ 168 世帯 (438 名) 随時相談に応じた提供 延べ 184 世帯 他 日本工業大学へお米・アルファ米の提供

(3) 福祉資金貸付

生活費に困窮している低所得者世帯に対し、応急的な資金の貸付と必要な助言指導を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進、在宅福祉や社会参加を図り、その世帯の安定した生活を確保しました。

① 宮代町福祉資金の貸付

計 564,080 円 (R5 年度 1,451,000 円)

福祉資金貸付規程に基づき、低所得者世帯に対し、生活の安定と自立の助長を図るため、民生委員の同意を求め、意見書を付して 5 万円を限度として、応急的な資金の貸付けを行いました。

*令和 5 年度から貸付限度額を 10 万円から 5 万円に減額しました。

■福祉資金

項目	内容
貸付件数	23 件 / 564,080 円 (R5 年度 47 件 / 1,451,000 円)
償還金	684,000 円 (R5 年 1,142,000 円)
欠損処理	0 円 (R5 年 832,000 円)
未償還金 (累計)	4,127,263 円 (R7.3.31 現在)

② 生活福祉資金（県社協）の活用促進

計 6,457,000 円 (R5 年度 6,438,000 円)

埼玉県社会福祉協議会の生活福祉資金貸付にかかる教育支援資金の貸付申請をいたしました。実際の貸付は、埼玉県社会福祉協議会で行いました。

■生活福祉資金

項 目	内 容		
緊急小口資金	0 件	0 円	(R5 年度 0 件)
教育支援資金	2 件	729,000 円	(R5 年度 1 件)
要保護不動産担保型生活資金	0 件	0 円	(R5 年度 0 件)

■法外援助

行路者旅費貸付及び支給規程に基づき、旅費（交通費）に苦慮している方に対し、貸付または支給しました。

*貸付件数 5 件

1,500 円 (R5 年度 2 件 2,300 円)

6 在宅福祉サービス

福祉車両や各種福祉機器を無料で貸出すことにより、歩行が困難である高齢者及び身体障がい者、病気療養中の方などの日常生活の負担を軽減し、高齢者等の社会参加の促進に努めました。

また、高齢者や障がいのある方等に対し、各福祉関係法や制度では担えない家事支援及び簡易的な介護等のサービス等を提供することにより、高齢者等の自立促進及び生活の質の確保を図りました。

① 福祉機器貸出事業

計 990 円 (R5 年度 6,171 円)

在宅の高齢者及び身体に障がいがある方等の日常生活の負担を軽減するため、福祉機器・福祉用具の貸出しを行い、在宅における福祉の増進を図りました。

■福祉機器貸出の状況

福祉機器	保有数	貸出数量	R5
車いす	36 台	131 台	88 台
シャワー椅子	11 台	10 脚	5 脚
歩行器・シルバーカー	19 台	29 台	17 台
松葉杖・四点杖・一点杖・ロフト トランドクラッチ	43 本	33 本	16 本

② 福祉車両貸出事業

計 518,995 円 (R5 年度 692,685 円)

歩行が困難な高齢者及び障がいのある方に対し、車いすに座ったまま走行できるリフト付車両を貸し出すことにより、歩行の困難な方々の行動範囲を広げ、積極的に社会参加する機会を確保しました。

■福祉車両貸出の状況

	R6 年度		R5 年度	
	延べ件数	延べ日数	延べ件数	延べ日数
タント	103 件	198 日	89 件	158 日
アトレー2号	75 件	190 日	32 件	55 日
計	178 件	388 日	121 件	213 日

③ まごころ支援サポート事業

高齢者等に対し、各福祉関係法に基づかない通院同行や外出介助、生活援助を行うことにより、利用者が安心して在宅で生活を営むことができるよう努めました。

■まごころサポートの状況

項目	R6 年度	R5 年度	比較
提供件数	延べ 120 件	延べ 146 件	▼26 件
提供時間数	130 時間	212 時間	▼時間
利用料収入額	182,100 円	249,045 円	▼66,945 円

7 介護・障がい福祉サービス

(1) 居宅介護事業所

計 18,198,225 円 (R5 年度 18,194,113 円)

①介護予防支援事業

要支援状態にある高齢者等について、町地域包括支援センターから委託を受け、要介護状態になることを予防するための心身の状態の維持や改善を考慮した中で、ケアマネジャーが利用者に合ったケアプランを作成しました。

■介護予防支援

項目	R6 年度	R5 年度	比較
介護予防ケアプラン作成件数	延べ 218 件	延べ 196 件	△22 件
介護予防ケアプラン作成報酬額	990,640 円	922,065 円	+68,575 円

②居宅介護支援事業

要介護状態にある高齢者等に対し、ケアマネジャーが利用者の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあったケアプランを作成しました。利用者がこの町で安心して在宅で暮らしていただくために、質の高いケアマネジメントを行うことに努めました。

■居宅介護支援

項目	R6 年度	R5 年度	比較
ケアプラン作成件数	延べ 1,198 件	延べ 1,157 件	△41 件
ケアプラン作成報酬額	19,505,761 円	17,867,838 円	+1,637,923 円

要介護度別 (件)	要介護度別 (件)	要介護度別 (件)	要介護度別 (件)	要介護度別 (件)
要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
413	401	139	136	140

(2) 訪問介護事業所

計 33,025,332 円 (R5 年度 32,945,437 円)

①介護予防日常生活支援総合事業

要支援状態にある高齢者等を対象に、要介護状態になることを予防し自立した日常生活を支援するため、ヘルプサービスを行いました。

■介護予防日常生活支援

項目 年 度	介護予防日常生活支援総合事業		比較
	R6 年度	R5 年度	
サービス提供件数	延べ 244 件	延べ 173 件	△71 件

②訪問介護事業

要介護状態にある高齢者等に対し、その人がその人らしく在宅でいつまでも暮らせるよう、心身の状況に合わせた身体介護、生活援助のホームヘルプサービスを行いました。

■訪問介護

項目	訪問介護		比較
	R6年度	R5年度	
サービス提供件数	延べ580件	延べ582件	▼2件

③ヘルパーの資質向上研修

実施月日	実施内容
R6・4・11（木）	令和6年度の年間計画について・研修：緊急時対応 ・検討会議
R6・5・9（木）	講義：接遇について・検討会議・実技研修「コミュニケーション」・事務連絡
R6・6・13（木）	講義：「感染症対策・食中毒」・「訪問介護感染予防対策」・事務連絡
R6・7・11（木）	全体研修「倫理・法令遵守・プライバシー保護・ハラスメント」・事務連絡
R6・8・8（木）	全体研修「虐待防止」・検討会議・連絡事項
R6・9・12（木）	実技研修「車椅子・移乗」・事務連絡
R6・10・10（木）	研修「事故発生、再発防止策、ヒヤリハット」・実技研修「食事介助」
R6・11・14（木）	全体研修「感染症対策」・実技研修「オムツ交換」・事務連絡
R6・12・12（木）	調理研修「高齢者向けの調理法」・事務連絡
R7・1・9（木）	全体研修「BCP」研修・検討会議・事務連絡
R7・2・13（木）	研修：「救命救急研修」講師日本赤十字社・検討会議・事務連絡
R7・3・13（木）	研修「認知症に関する研修」・検討会議・事務連絡

（3）地域包括支援センター事業

計 1,612,979 円（R5年度一）

令和7年4月からスタートする「宮代町南高齢者相談センター」の開設に向けて、事務所設置、職員体制、運営体制、管理体制等を整備しました。

また、町の運営方針に基づく事業計画の策定、各事業の企画等を進めるとともに、現地域包括支援センターからの引き継ぎ等を順次進めました。

（4）障がい福祉サービス事業

障害者総合支援法に基づき、「宮代ひまわりの家」「相談支援事業所ひまわり」を運営し、障がいのある方やその家族が円滑に障がい福祉サービスを利用することができるよう支援しました。「福祉の店喫茶ぶどうの樹」の運営と併せ、障がいのある方が安心して地域で生活できるよう努めました。

① 宮代ひまわりの家

計 93,989,354 円 (R5年度 93,862,619 円)

障害者総合支援法に基づき、障がい福祉サービス事業所として生活介護、就労継続支援 B 型事業を提供しています。

令和 6 年度は、3 名の新規利用者（年度途中含む）、3 名の退所者（永眠、施設及び GH 入所）があり、計 47 名の登録利用者が在籍、活動しました。ニーズに応じて休日開所を数日実施しました。

また、利用者や保護者の高齢化に伴い、将来の生活や緊急時に備えるため他事業所での短期入所や体験利用が活用できるよう相談支援事業所ひまわりと連携を図っています。取り組みを通じて、家族状況によって在宅生活が困難となった方についてスムーズに施設や GH へ生活の場を移すことができました。

■利用者の状況

項目	R6 年度	R5 年度	比較
延べ利用人数	9,242 人	9,372 人	▼130 人

■班活動

作業班別	作業の内容	利用者 (人)
資源班	大口の資源回収及び業者への搬入	4
回収班	町内を対象にダンボール等を回収	4
ひまわり班	創作活動、牛乳パック回収・ウォーキングで体力維持等。 身辺自立/生活面の訓練	10
清掃班	保健センター、郷土資料館内の清掃業務、所内の特別清掃	6
さをり班	さをり織り（支援員による加工製品化） タオル内職及び創作活動、生活面の訓練	5
内職班	内職（販促景品の袋詰め）、所内清掃、創作活動等	7
洗濯班	六花内の老健入所者及び六花職員の衣類の洗濯	6
自動販売機班 (ぶどうの樹)	自販機 14 台への飲料補充、管理等。内職作業（ペン組立） ぶどうの樹進修館店での実習	※(4)
合計		47 人 ※() は再掲

■実施した年間行事

コロナの 5 類移行に伴い、自粛していた利用者自治会の再開など、継続的な感染対策を行いながら社会参加の機会や余暇活動の場が提供できるよう努めました。

項目	内容
主な行事	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめの会 (R6. 4. 1)、納めの会 (R6. 12. 27) それぞれ年度初め、年末の節目に利用者、スタッフで開催 ○日帰り研修 (年 1 回) 活動班ごとに、「鉄道博物館」への社会科見学 ○ワクワクランチ…フードコートなど外出先での外食体験の再開 (月 1 回) ○健康相談及び健康観察 (月 1 回) ○利用者自治会「わんぴーすの会」(R6. 5. 23 6. 27 10. 10) 役員選挙で選ばれた利用者主体で運営 ハロウィンパーティー (R6. 10. 31) を開催

■給付費及び訓練等給付費収入

項目	R6 年度収入額	R6 年度利用者数	R5 年度収入額	R5 年度利用者数	比較
介護給付費	64,480,697 円	生活介護 23 名	70,441,368 円	生活介護 23 名	-5,960,671 円
訓練等給付費	32,873,837 円	就労継続支援 B 型 24 名	29,800,805 円	就労継続支援 B 型 22 名	+3,073,032 円
計	97,354,534 円	計 47 名	100,242,173 円	計 45 名	-2,887,639 円

■就労支援事業収入

計 12,929,678 円 (R5 年度 12,599,577 円)

就労継続支援の一環として、引き続き宮代町保健センター及び宮代町郷土資料館の清掃業務、また、公設宮代福祉医療センター六花の洗濯業務を受託しました。

その他、自主製品（さをり織り）の製作販売、内職活動（シャープペンシル組立作業、販促の景品の袋詰め等）、自動販売機管理による飲料販売、町内の資源物回収など、利用者工賃の確保に向けた活動を継続しました。さをり織りにつきましては、令和 6 年度をもって作業班としての活動を終了いたしました。

② 福祉の店喫茶ぶどうの樹

計 5,675,389 円 (R5 年度 4,866,537 円)

コロナの 5 類移行、進修館のエアコン工事終了に伴い、昨年 5 月より本格的に営業再開し 2 年目を迎えることができました。再開に合わせランチメニューやケーキセットの提供、町民まつりやひな祭りイベントへの参加など、集客や営業活性化に努めました。

また、運営目的に沿った障がい者交流の拠点として、障がいのある方の職場実習、地域ボランティアの受け入れを行うとともに、指定寄付により応援いただいた寄付金を活用し、エプロン等をリニューアルしました。

(5) 相談支援事業所ひまわり

計 12,617,084 円 (R5 年度 12,036,380 円)

近年、「障がい児」に関わる依頼が増えており、利用者や家族の要望に添いながら、一人ひとりの心身の状況にあった支援提案、計画を作成し、利用者が安心して暮らしていけるよう丁寧なケアマネジメントを行うことを心掛けました。

地域連携として「ふれんだむ」「庄内」「ROAD」に加えて、令和 6 年度は「ぷらすわん」と事業所協定を結び、機能強化型支援 I により運営するとともに、毎月埼葛北地区自立支援協議会の相談支援事業所連絡会に参加し、多角的な視点で支援提供しました。

■相談支援事業所ひまわりの状況

項目	R6 年度	R5 年度	比較
サービス等利用計画、モニタリング作成件数	延べ 647 件	延べ 654 件	▼7 件
計画相談支援給付費収入	14,819,203 円	13,677,679 円	+1,141,524 円

8 その他

(1) 共同募金会宮代支会

①赤い羽根共同募金

募金活動への寄付をとおして、福祉に参加するという意義を啓発するとともに、資金の必要性を周知し福祉コミュニティの構築を促進することを目的に、埼玉県共同募金会の実施要項に基づいた赤い羽根共同募金を実施しました。

■赤い羽根共同募金

	R6 年度	R5 年度	
戸別募金	1,792,600 円	1,945,901 円	町内各自治会より
職域募金	125,630 円	157,942 円	宮代町民生委員・児童委員協議会、福祉関係職員、宮代町職員、社協職員より
街頭募金	81,740 円	37,504 円	町内の 3 駅で街頭募金を実施（利息分 1 円を含む）
個人募金	1,744 円	2,966 円	町内個人等より
法人募金	0 円	0 円	法人・企業より
学校募金	48,870 円	34,980 円	町内小中学校、高校より
計	2,050,584 円	2,179,293 円	

②地域歳末たすけあい募金

新たな年を迎える時期に、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、町内事業所等へ協力を依頼し、歳末たすけあい募金を実施しました。

*募金総額 643,391 円 (R5 年度 656,683 円)

(2) 日本赤十字宮代町分区

①日本赤十字社会員募集

毎年 5 月に町内全域を対象に会員募集を行いました。この会費は、災害救護対策等を実施するための活動費であり、日赤の様々な活動を支える大切な資金となっています。

*会費総額 1,334,700 円 (R5 年度 1,512,340 円)

②日赤災害救援物資及び災害見舞金の交付

災害救助法の適用に至らない災害(火災等)を受けた被災者に対する支援がありますが、令和 6 年度の実績はありませんでした。

*火災見舞金 0 件 (R5 年度 0 件)

*災害救援物資配布世帯 0 件 (R5 年度 0 件)

③宮代町赤十字奉仕団への支援

地域奉仕団として組織されている「宮代町赤十字奉仕団」の事務局として、奉仕団の活動を支援しました。

令和6年度は、奉仕団とともに、下記のとおりさまざまな赤十字の普及活動を実施しました。

■宮代町赤十字奉仕団の活動

活動内容	回数	奉仕団員・金額
献血周知活動	3回 (R5年3回)	18名
他奉仕団との交流事業	0回 (R5年2回)	0名
夏のボランティア体験 (災害時の調理)	1回 (R5年0回)	10名
災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	1回 (R5年1回)	12名
能登半島の義援金呼び掛け	2回 (R5年1回)	12,398円

④自主防災会等への支援

町主催の防災訓練や地域自主防災会等に対し、日赤埼玉県支部の協力のもと、防災への意識を高めることを目的とした救急法やハイゼックス講習等を実施しました。

活動内容	回数	奉仕団員数	参加者
救急法講習会	1回	0名	8名
災害時の調理法の紹介	1回	5名	約80名
ハイゼックス訓練講座	1回	7名	15名
防災セミナー	0回	0名	0名
防災訓練	1回	13名	約400名
体験型の防災講習会	0回	0名	0名